

## 事業の背景・目的

- ・実績報告書（別紙 9 - 3）を基に、事業の背景や目的、必要性、地域における生物多様性保全上の課題等を簡潔に記載（300文字以内）  
シマフクロウ保護増殖事業の一環として、国内でのシマフクロウの新規飼育園となり飼育繁殖を行うことで、公益社団法人日本動物園水族館協会におけるシマフクロウの管理計画を推進させ、保護増殖事業計画における生息域外保全を強化する。現在、北海道の4つの動物園でシマフクロウを飼育しているが、飼育スペースの問題等から、飼育園館の増加が課題となっている。今回、当園で新たにシマフクロウを導入することで、新たな繁殖基地になるとともに、繁殖計画に乗らない個体を受け入れる場合は、道内の繁殖促進に貢献できる。また、危険分散の意味合いもある。本州で唯一のシマフクロウ飼育園として、生息域外保全の普及啓発にも取り組んでいく。

## 事業の内容

- ・実績報告書（別紙 9 - 3）を基に、実施した事業結果の概要を簡潔に記載。事業が複数ある場合や、複数年度にわたる場合には、枠囲みを用いるとわかりやすい。

### 事業① 動物飼育舎（猛禽舎）の整備事業

- ・猛禽舎の1室をシマフクロウの飼育繁殖に適した施設へと改修した。
- ・餌場（池）の設置、屋根の設置、日よけの設置、備品としてスポットクーラーの購入

### 事業② シマフクロウの導入

- ・釧路市とブリーディングローン契約を締結し、3月29日に釧路市動物園からシマフクロウ1羽を借り受け、導入した。

### 事業③ 飼育研修

- ・令和元年度に繁殖に向けた取組として、担当職員の飼育研修を釧路市動物園において、2泊3日の予定で実施する。

## 得られた成果

- ・実績報告書（別紙 9 - 3）を基に、事業の成果、活動継続の見通し、事業終了後の展開等を簡潔に記載（400文字以内）  
平成31年3月29日にメスのシマフクロウ1羽を導入した。今年度（令和元年度）に、繁殖に向けた取組として、担当職員の飼育研修を行う予定である。  
今後は、公益社団法人日本動物園水族館協会生物多様性委員会のシマフクロウ計画管理者と協議し、現在飼育展示している個体を用いて、普及啓発活動を行うとともに、将来的には、オスを導入して本格的に繁殖に取り組んでいきたい。